

令和3年度 串間市立市木小学校「学校関係者評価書」

評価の基準	「4」期待以上 ～85%	「3」ほぼ期待通り 84%～70%	「2」やや期待を下回る 69%～40%	「1」改善を要する 40%～
学校の教育目標	自信に満ち 豊かな心をもって たくましく生きる子どもの育成			

本年度の重点目標 ○ 生きる力を育む確かな学力の育成 【知：共に学び伝え合う喜び】

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自校評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
生きる力を育む確かな学力の育成	<b>■楽しく、分かりやすい授業づくり</b> ・楽しい授業 肯定的回答 児童 100% 保護者 97% 教師 100% <b>【平均 99%】</b>  ・分かりやすい授業 肯定的回答 児童 97% 保護者 97% 教師 100% <b>【平均 98%】</b>	1	<b>概ね「4」の評価</b> ○ アンケートでは「学校が楽しい」と肯定的に回答した児童がほとんどである。保護者の回答でも97%の保護者が肯定的な回答であった。教材研究や複式指導等における学習環境づくりに取り組んだので、児童が楽しく授業に参加できた。今後も児童の興味・関心を高めるとともに、学力の向上を目指すような授業に取り組んでいきたい。			○児童・保護者・教師ともに「授業が楽しい」と高評価で一致している。複式学級では大変な苦労があるのではないかと思うが、教材研究もされており、環境づくりにも力を入れている。今後の学力向上に期待したい。  ○授業内容を拝見して内容が充実しておりICTも効率的に用いて、児童が理解しやすく、発表したりお互いの意見を共有したりしている。これからの教育はICTは不可欠である。一人一人端末での活用は、授業にもよく活用され効果も上がっていると感じた。
	<b>■基本的な学習態度や望ましい学習習慣の形成</b> ・聞く姿勢や態度 肯定的回答 児童 100% 保護者 89% 教師 75% <b>【平均 88%】</b>	3	<b>概ね「3」の評価</b> ○ 児童は、肯定的な回答が多いが、保護者や教師としては、最後までしっかりと話を聞いているとは評価していない。学校生活場面全般において、話を聞くことは大事なことで、「相手の方を向いて話を聞く。」ことを指導するとともに「友達に話を伝えたい。」「友達の話を知りたい。」という意識をもたせるようにしたい。			○今人の話を聞けない、聞く力が弱い子が増えていると思う。授業を理解するため「聞く力」がしっかり育っていないと苦労することになる。人の話を聞き、何を伝えたいのかを理解することが読解力向上の土台になる。お互いの思っている事や考え方を理解しようとして、共有したりという意識付けをお願いしたい。
	・考えを伝える力 肯定的回答 児童 91% 保護者 91% 教師 88% <b>【平均 90%】</b>	4	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 児童91%、保護者91%、教師88%が肯定的な評価である。児童は自分の考えをもって考えを伝えようとしている。今後も、個人思考の時間を確保することで、自分の考えをしっかりともち、考えや思いをしっかりと伝えられるように指導を継続したい。	3	3	○伝える力が身に付いていれば、話を聞いて、本を読んでも、伝えたいことを読み解くことができる。経験の積み重ねで伝える力が育つと思うので今後も指導の継続をお願いしたい。
	漢字力、計算力 肯定的回答 保護者 92% 教師 88% <b>【平均 90%】</b>	5	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 保護者の肯定的評価は92%で、教師は88%である。漢字力や計算力については、漢字コンテストやまとめテストに向けての継続した指導により、向上している。今後も、継続した指導とともに、スキルタイム（朝、昼）等の取組を継続することで、漢字力、計算力の向上に努めたい。またICT機器のソフト活用による漢字力、計算力の取組も考えていきたい。			○漢字力・計算力は勉強の基礎である。基礎がしっかり身に付いていないと、その後の学力は付けにくくなる。短時間で効率よく力を付けることが大切である。
	・読書の習慣（家読） 肯定的回答 児童 84% 保護者 50% 教師 51% <b>【平均 61.6%】</b>	6	<b>概ね「2」の評価</b> ○ 肯定的評価が、児童84%であるが、保護者や教師の肯定的評価は50%程度という結果から、家庭においては、読書に親しむ姿があまり見られないようである。今後は学級懇談や「串間っ子 学習の手引き」等を通して家庭での啓発に取り組むことで、読書の習慣化を図りたい。また、学校においても、国語の時間に効果的な図書室の利用（読書・調べ学習等）を行う等して読書意欲を高めていきたい。			○読書は情操教育の一環として大切な役割があり、無限の力がある。効果が現れにくいので見落としがちである。読書を通して様々な力が生まれ、「生きる力」が身に付くと言われる。読書する楽しさ、喜びを感じるよう家庭での環境づくりに取り組んでほしい。
	・家庭学習 肯定的回答 児童 73% 保護者 69% 教師 50% <b>【平均 64%】</b>	7	<b>概ね「2」の評価</b> ○ 児童の評価は73%の評価であり、保護者は69%、教師は50%である。家庭や児童によって、家庭学習の取組に違いがある。今後も、学級懇談等を通して、「串間っ子 家庭学習の手引き」の周知を図るとともに、家庭の協力を得ながら、家庭学習の習慣化を図りたい。さらに、担任による家庭学習の取組への称賛や確認により、児童の意欲を高めることで、家庭学習が定着化できるようにしたい。			○家庭学習では、保護者の協力がとても大事である。どれだけ教科内容を理解しているか確認したり、もう少し頑張ってもらいたいところを励ましたりして伸ばしてあげてほしい。

本年度の重点目標		○ 命を大切にし、豊かな心を育む教育の推進		【 徳：生命を尊重し思いやる喜び 】		
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
命を大切にし豊かな心を育む教育の推進	<b>■基本的な生活習慣の確立</b> ・挨拶の習慣 肯定的回答 児童 100% 保護者 71% 教師 67% <b>【平均 79%】</b>	8	<b>概ね「3」の評価</b> ○ 児童は、よく挨拶をしていると自己評価している。しかし、保護者や教師の評価は70%程度であり評価が低い。登下校時や地域等での挨拶には、課題があるといえる。今後は、進んで挨拶することの意義を日常生活のあらゆる場面で指導したり、児童への声かけや見届けを行ったりすることで、挨拶の習慣化を図りたい。			○気持ちのいい挨拶をする事によって自分自身の一日のスタートが良いものとなる。まずは身近にいる保護者（人生モデル）が挨拶をする姿を見せることが大切である。登下校や地域内における挨拶の問題点は、高齢化が進む市木において対象になる相手が外に出ていないのか、地域での交流が少ないのか私達も考えなければいけない。
	・学校の生活のきまり 肯定的回答 児童 79% 保護者 83% 教師 75% <b>【平均 79%】</b>	9	<b>概ね「3」の評価</b> ○ 学校全体や各学級で、機会あるごとに継続的・具体的な指導を行っており、大きな問題行動等は発生していない。保護者の評価も83%である。また、「市木っ子よい子の一日」等をもとに児童にきまりを守ることの大切さを常時指導している。今後も「なぜきまりを守る必要があるのか」を考えさせるとともに、学級指導や全校朝会等で指導・評価を行ったり、保護者・地域や学校が連携を図ったりしながら取り組んでいく必要がある。			○一般社会と同様に、学校にもきまりやルールがあり、みんなが気持ちよく生活するには、きまりを守ることが第一である。この意味と意義を理解させ守らなければならないという指導をお願いしたい。
	・手伝いや清掃(協力) 肯定的回答 児童 97% 保護者 82% 教師 100% <b>【平均 93%】</b>	10	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 家庭での手伝いや清掃に関しては、保護者の評価は82%である。児童や職員の評価も高いので、概ね手伝いや清掃等における取組は評価できるものである。清掃については、縦割り清掃に取り組むとともに、児童と教職員と一緒に清掃に取り組んだり、清掃終了後の反省会で児童の取組を賞賛したり、アドバイスしたりすることで、意欲付けを図っている。今後は、家庭での取組も含めて、児童が率先して行動する態度を育成していきたい。			○毎日の清掃活動を通して、きれいにすることの気持ちよさに気付くことができる。「自分たちの学校を自分たちの力で美しくしよう」という目標をもたせ、きれいになったら「気持ちいい」という感覚を培わせる指導をお願いしたい。また家庭でも幼い頃からこういった活動を子どもの視点でもたせるのもよい。家庭での手伝いをすることによって「ありがとう」「助かったよ」など言ってもらえる事で人の役に立ち、自尊心を高めることにもつながる。
	<b>■学級の望ましい人間関係と思いやりの心の醸成</b> ・言葉遣い 肯定的回答 児童 86% 保護者 87% 教師 95% <b>【平均 89.3%】</b>	11	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 児童、保護者、職員のアンケートでは言葉遣いについては肯定的な評価が多い。学校での児童の教育相談アンケート等の結果では、友達を呼び捨てにすることを気にしている児童も見られた。今後は、呼び捨てをしないことを含めて、相手を意識した言葉遣いについて指導していきたい。特に、自分も相手も大事にするという意識をもつことで、丁寧な言葉遣いができるようにしていきたい。さらに、発達段階に応じて、正しい言葉を意識させる指導を継続的に行っていきたい。	3	3	○子どもの言葉遣いが悪かった時に頭ごなしに否定するのではなく、なぜそのような言葉遣いをするのか、その原因を探り、必要に応じて論じていくことが大切である。周囲の大人や親の口調を真似ている場合もあり、無意識に使っていないか、振り返らせる指導も必要である。 12月の学校保健委員会で、「ゲームの中で参加する相手を殺す内容の話」があり、保護者・児童を交えて考えてもらう時間があつたのがよかった。全てがゲームに理由付けできないかもしれないが対策を講じたことは意義があつた。
命を大切にし豊かな心を育む教育の推進	・人間関係①(人権尊重) 肯定的回答 児童 91% 保護者 93% 教師 93% <b>【平均 92.3%】</b>	12	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 保護者の回答では、93%が肯定的な回答であり、児童の回答・職員の回答でも、90%以上が肯定的である。朝の会や授業等で、友達の頑張ったところ等を称賛する場面も見られる。今後も、人権教育・道徳教育の充実も図りながら、お互いを尊重し、思いやる心と態度を育てていきたい。			○市木のような少人数の学校ではお互いが大切な仲間になっている。登校時に友達を待っていたり、学校へ持って行く物を確認したりしている。今後も友達の大切さに気付かせ、互いに尊重し、良さを認め合える共感的な姿勢を持てることを期待したい。
	・人間関係②(相互協力) 肯定的回答 児童 94% 保護者 98% 教師 100% <b>【平均 97.3%】</b>	13	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 児童・保護者・職員のアンケートでは、90%以上が肯定的であり、ほとんどの児童に協力し合う態度が身に付いている。本校は、小規模校であり、学校生活のいろいろな場面で友達を助けたり、励まし合ったりしている。今後も、相手を意識した行動や思いやりのある言動ができるように指導していきたい。			○みんなで協力し合ったり助け合ったりする場面は運動会や子ども柱松の時に感じた。下校後や休日等も、一緒に魚つりをしたり、遊んだり、一緒に出かけたりする姿を見かける。お互いに仲良く助け合い、協力し合い、信頼し支え合う育成を促してほしい。
	<b>■整理整頓</b> ・整理整頓 肯定的回答 児童 69% 保護者 38% 教師 86% <b>【平均 64.3%】</b>	14	<b>概ね「2」の評価</b> ○ 児童は整理整頓ができていると回答しているのが69%である。保護者の肯定的な評価は38%とかなり低い。職員の回答は肯定的回答が多い。このことから、児童の整理整頓については、学校ではある程度できているものの、家庭での整理整頓は、十分でないことがうかがえる。家庭での整理整頓に関しては、学校や家庭で連携した取組が必要であるので、今後も学級懇談や学級通信等を通して連携していきたい。家庭での整理整頓ができることで忘れ物等の減少にもつながるものと考え。			○整理整頓は学校内においては問題ないと思う。家庭での習慣付けが大事だが、できていない家庭が多いという結果。家庭において整理整頓ができれば、帽子や名札等の忘れ物が減り、落ち着いた生活につながる。自分の力でできるように、学校や家庭で見守っていただきたい。

本年度の重点目標		○ 健やかな体の育成と安全教育の充実 【体：健康・安全で共に伸びる喜び】				
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
健やかな体の育成と安全教育の充実	<b>■基礎体力の向上</b> ・外遊びと運動 肯定的回答 児童 97% 保護者 82% 教師 100% <b>【平均 93%】</b>	15	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 昼休みなどは、学年を越えて仲良く元気に外遊びをしている状況にある。ただ、本年度もコロナ禍の影響で、体力向上の取組を十分に実施できない面もあったが、感染症対策や熱中症対策を行いながら体力向上を図ってきた。児童は体育に関しての意欲が高いので、今後も感染症対策を徹底するとともに、体育の時間や運動量を確保しながら、個々の体力向上につなげていきたい。	3	3	○コロナ対策は避けられない問題であるが、学校では十分な対策をとり、形を変えながら体力向上に努めていると思っている。小さな失敗やケガなどを繰り返す中、多様な刺激で、自分自身の身を守りながら行動していく事を学ぶような環境づくりをお願いしたい。
	<b>■健康な生活習慣の確立</b> ・望ましい生活習慣(リズム)の形成 肯定的回答 児童 91% 保護者 85% 教師 57% <b>【平均 77.6%】</b>	16	<b>概ね「3」の評価</b> ○ 児童の「早寝・早起き・朝ごはん」の回答は91%と高く、保護者も85%が肯定的な回答である。しかしながら、個人での取組には差があり、十分とは言えない。早寝に関しては就寝時刻が遅くなることで、生活リズムが乱れたり、授業に支障が出たりする可能性もある。本年度は、学校保健委員会において、メディアに関する講話やアンケート結果報告を5・6年児童と保護者を対象に行った。生活リズムと合わせて、家庭の協力が必要である。今後も、元気アップ週間や学校保健委員会等を通して「早寝・早起き・朝ごはん」を実践する家庭が増えるように努めていきたい。			○家庭においては基本的な生活リズムを整えさせ、余裕をもって生活できるよう、時間を意識させて生活することを心がけることを親子で意識させたい。生活習慣の形成は、各家庭それぞれに違いがあると思うが、基本の「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣になることが大切である
	<b>■安全教育の推進</b> ・安全意識 肯定的回答 児童 97% 保護者 94% 教師 78% <b>【平均 89.6%】</b>	17	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 保護者の肯定的な評価が94%であり、児童が交通事故等に遭うといった状況は発生していない。しかしながら、登下校の道路は道幅が狭く、大型車両が多いため、安全に留意する必要がある。今後も、「自分の身は自分で守る」ということを意識させたり、登校班会や下校指導等を通して、安全指導を徹底したりしたい。また災害(地震、火災等)や不審者と遭遇した場合の対応についても、警察や地元消防団等の協力を得て具体的な指導を実施している。特に避難訓練(火災)については、地元消防団の協力を得て、児童の防災意識を高めることができた。避難訓練(地震・津波)については、3学期にも抜き打ち訓練を行うことで、身に付けた避難方法を実践することができた。今後も計画的・継続的に危険予知能力や危機回避能力の育成に取り組んでいきたい。			○校内での危険箇所(器具の不具合等)の定期的点検を強化し、児童のケガにつながらないように注視してほしい。災害や不審者等、児童の気を引き締める案件はたくさんあり地域でも児童を見守る努力を継続するとともに、その仲間を増やしたいと思う。 シェイクアウト訓練も市木保育所と協同で行うことができ、大地震に備えるための良い企画であり、今後も続けていただきたい。

本年度の重点目標		○ 地域に開かれ信頼される学校の実現 【 連：人の役に立ち繋がり合う喜び 】		自己評価	外部評価	
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント		学校関係者評価委員コメント	
地域に開かれ信頼される学校の実現	<b>■家庭・地域社会との連携</b> ・学校と家庭との連絡 肯定的回答 児童 82% 保護者 89% 教師 62%	18	<b>概ね「3」の評価</b> ○ ほとんどの児童が、学校からの配付物等を家庭に届けていると回答しているが、保護者は88%という回答であることから、配付物を持ち帰ってはいるが、保護者まで確実に届いていないという状況が考えられる。学校からの配付物の中には、重要な内容のものもあるので、未提出の家庭には、担任が電話連絡等によって、連絡を取る等の手立ても実践している。今後も、学級担任を中心に、電話や手紙による保護者との連携を密にしながら、児童に関する情報を共有していきたい。また、様々なPTA活動に、保護者とともに教職員が参加することにより、信頼関係を築していきたい。	3	3	○家庭は基本的な生活習慣や社会生活を営むための基本的なルールやマナーを身に付ける上で極めて重要な役割を担っている。子どもの想いと教師の温度差は若干あるものの、懸命に取り組んでいる様子が伺える。配付物は大事な内容のものもあるので保護者までしっかり届くよう意識付けをしたい。保護者側からの声かけがあると気がつく場合もあるので、子どもとのコミュニケーションを取るようしてほしい。
	・親子の会話 肯定的回答 児童 91% 保護者 69% 教師 85%	19	<b>概ね「3」の評価</b> ○ 保護者の82%が、学校での様子をよく話していると回答し児童も87%が話していると回答している。家庭での会話を増やすことで、親子の絆を深めたり、児童の変化や学校の様子を理解したりできるようにしたい。また、ノーメディアデー等により、親子で話す時間を増やす等に取り組んでほしい。			○子どもは自分の話を聞いてほしいものである。聞いてもらうことにより気持ちが整理できたり、落ち着いたりする。親子の会話は、よくされているようである。後回しにせず、その場で聞いてあげると話したくなると思う。
	・地域との交流 肯定的回答 児童 76% 保護者 89% 教師 32%	20	<b>概ね「2」の評価</b> ○ 本年度もコロナ禍のため、市木地区で行われる行事や串間市主催の行事等も中止となり、児童が行事に参加できる機会がほとんどなかった状況であった。そのため、教師の回答も32%と低い。そのような状況の中で、PTAからの要望もあり、「子ども柱松」を昨年度に引き続き、「柱松体験」として12月の参観日で実施することができた。子ども達にとっては、地域の伝統行事としての「子ども柱松」を体験できたことは大きな意義があった。また、「高齢者ふれあい体験」では、地域の高齢者と児童が、グラウンドゴルフを通して交流することができた。「市木っ子花壇」（市木地区青少年育成協議会管理）の苗植え・除草等に年間を通して児童が取り組んでいるが、地域の方も市木っ子花壇の花を見ることを楽しみにしている。さらに、避難訓練（火災）では、市木地区消防分団団員が全面的に協力していただいたり、消防車両6台や道具等を展示していただいたりした。学校としては、今後も、コロナ禍における新しい教育活動を視野に入れながら、行事への参加や地域人材の活用、地域の方々との交流の場や機会を考えていきたい。			○コロナ禍で地域の活動が中止となり、児童の発表が拝見できなく残念に思っている。参観日の「子ども柱松体験」では大人顔負けのすばらしい表現をされていた。児童の息の合った動きや判断力には目を見張るばかりで、市木小の取組の高さを感じた。地域の人や他校の人と触れ合う機会が少ない今日だが、市木小学校はコロナの状況を見ながら色々な体験ができるよう工夫されていると感じる。地域の人たちの生き生きと働く姿や生き方を知ることは、これまでの自分の考えを広げるだけでなく、将来を考えるきっかけとなり、将来活躍する自分の姿を思い描く良い機会になる。今後も大いに交流を活発に推進して頂きたい。
・学校からの情報発信 肯定的回答 保護者 94%	21	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 保護者の94%が学校からの情報発信が十分に行われていると回答をしている。主な情報発信として、毎月の学校だよりを各自治会や学校関係者評価委員会の方に送付したり、行事等の紹介をホームページで紹介したりして、教育活動の情報を発信することができた。特に学校だよりについては、市木地区の回覧板で閲覧していただくことで、「地域の学校」としての役割を果たしている。また、学校行事や参観日等について、学校関係者評価委員の皆様にご案内し、参観していただくことで、本校教育活動への理解を深めていただくことができた。保護者に対しても、必要に応じて文書を発行したり、マチコミメールを活用したりし、迅速な情報発信にも努めている。さらに、学校行事等については、報道機関への情報提供を行うことで、いくつかの取材を受けることができた。今後は地域の方々との交流や情報収集にも力を入れていきたい。	○コロナ禍で様々な行事が中止や延期になり児童の活動を直接見られない保護者も多いと思うが、ホームページで学校の様子が詳しく発信されている。また市木地区の回覧板で「学校だより」を見る事を楽しみにしている。「宮崎日日新聞」や「広報くしま」にも投稿されているので学校で取り組まれている事がよく分かる。これからも続けていただきたい。			
・学校の対応 肯定的回答 保護者 92%	22	<b>概ね「4」の評価</b> ○ 保護者の92%が肯定的に回答している。これまで、学校が児童や保護者の相談等に対して、迅速かつ適切な対応を行ってきた結果と判断できる。学校への要望等については、学校の課題として再認識することもできた。今後も、保護者や地域の方々の意見や要望等に対して、誠意ある対応を心がけていきたい	○学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけでなく社会全体で子どもの育ちを支えていくことが求められている。それぞれが持つ力を効果的に発揮できるよう対応をお願いしたい。保護者からの相談や要望に対して受け入れられる事や無理な事があると思うが、誠意ある対応で相互理解や信頼関係が築けると思う。これからも安心して登校させられるよう継続してほしい。			